



[看取りとおくり02](#)



[看取りとおくり01](#)

「納得のいく看取りとおくりを考えよう」という講座が、3月、浜松市内（クリエート浜松）で開催された。

主催はNPO楽舎（浜松市天竜区春野町）。浜松市の文化事業として行われた（みんなのはままつ創造プロジェクト）。

禅宗の僧侶、神主、牧師、インド人、無宗教の人など、それぞれ死生観を語った。全7回の講座で、毎回20～30名の参加。延べ180名が参加した。

「看取りとおくり」は、宗教・宗派によってそれぞれちがう。仏教ではどういう考えで行うのか。神道においてはどうか。キリスト教ではどうか。また、インドではどうか。それぞれの講師が死生観を語った。

多彩な講師陣。寺独自にエンディングノートをつくって、檀家と語り合っている臨済宗の稲垣住職。自死防止ネットワーク、巡礼の会、国際ボランティア活動などの活動をしている曹洞宗の笛岡住職。ドイツで禅の指導をしている臨済宗の向住職。

神職歴30年の松下神主。東大で森林環境学を修めて牧師への道に入った神戸牧師。東インドのベンガル州出身の横田スウルナリさん。宗派を超えて「看取りとおくり」の本質について語った。また、参加者には医師、看護師もいて、それぞれの体験を語った。

「親しい人の看取ること」「自らが看取られ、おかれること」という2つの問題がある。

「死」は、どんな人も逃れることはできない。また、いつ訪れるのか分からない。

死を見据えることは、いまをたいせつに生きることにつながる。それらを参加者同士が語り合い、考えをわかちあった。次回は、8月に開催予定。

浜松市北部担当特派員 池谷 啓